



太陽と月のカレンダー

※日の出・日の入りは八王子での時刻です。

月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日	日曜日
日付 ▼情報 暦(こよみ) 天文現象 イベント		1 04:28 19:05	2 ☆半夏生 04:29 19:05	3 04:29 19:05	4 04:30 19:04	5 04:30 19:04
6 04:31 19:04	7 04:31 19:04 小暑	8 ・明け方の東の空で月と土星が接近 04:32 19:04 下弦	9 04:32 19:03	10 04:33 19:03	11 04:33 19:03	12 ・明け方の東の空で月と火星が接近 04:34 19:02 星空さんぽ
13 04:35 19:02	14 04:35 19:02 新月	15 04:36 19:01	16 04:37 19:01	17 ・夕方の方の西の空で月と金星が接近 04:37 19:00 トワイライト	18 04:38 19:00	19 04:39 18:59
20 海の日 04:39 18:58	21 04:40 18:58 上弦	22 04:41 18:57	23 04:41 18:57 大暑	24 04:42 18:56	25 04:43 18:55 全編生解説	26 04:44 18:54
27 04:44 18:54	28 04:45 18:53	29 満月 04:46 18:52	30 04:47 18:51	31 ・みずがめ座δ南流星群が極大。(月が明るく条件は悪い。) 04:47 18:50	☆半夏生(はんげしょう) 雑節(ざっせつ)の一つで、夏至(げし)の約10日後。田植えを終える目安とされてきた。 雑節…二十四節気をおぎなう季節の目安。	

二十四節気



月の満ち欠けをカレンダーに使っていた旧暦(太陰暦)の頃から使われてきた季節の節目を表したもの。太陽の動きから1年を24等分している。

小暑(しょうしょ)…暑気(しょき)に入り梅雨のあけるころ。
大暑(たいしょ)…夏の暑さが最もきわまるころ。

プラネタリウムイベント情報!

※詳しくはホームページ等でご確認ください。

夏の星空さんぽ

12(日) 15:50~16:40

見ごろの星や星座、天文現象のお話

トワイライトプラネタリウム

18(土) 18:00~18:50

「南極ヒーリング」
(前半は今夜の星空解説)

夏休み天文講座

25(土) 14:20~15:10

テーマ「ペルセウス座流星群を観察しよう」(前半は今夜の星空解説)

全編生解説プラネタリウム

26(日) 15:50~16:40

テーマ「南半球の星物語
-オーストラリアの星空を訪ねて-」
(前半は今夜の星空解説)

7月7日は七夕



七夕は、織姫と彦星が天の川を渡り、年に一度だけ会えることができるという中国の伝説に由来する行事です。



七夕の星として知られる織姫星は、こと座のベガ。彦星は、わし座のアルタイルです。どちらも明るい1等星です。☞「★かんたん星座早見★7月」参照

※
空が暗いところでは、2つの星の間に天の川を見ることができます。(※星座早見では描いてありません)

七夕はもともと、昔の暦(旧暦)の7月7日の行事です。今の暦(新暦)の7月7日は、梅雨の時期にあたるため、星が見えない夜も多くあります。

そのため、国立天文台では、毎年、旧暦の7月7日に近い日を新暦に当てはめ、その日を「伝統的七夕」と呼んでいます。

伝統的七夕の日は毎年変わり、今年は8月19日です。大体、梅雨の時期を過ぎた8月ごろになるため、地域によっては8月に七夕の行事をしています。

七夕は一年の中で5つの季節を指す「五節句(ごせっく)」のうちの一つです。

五節句

1月7日「人日(じんじつ)」 = 七草の節句
3月3日「上巳(じょうし)」 = 桃の節句(ひなまつり)
5月5日「端午(たんご)」 = 菖蒲の節句(こどもの日)
7月7日「七夕(たなばた)」 = 笹竹の節句
9月9日「重陽(ちょうよう)」 = 菊の節句

それぞれの節句で、健康や幸運を祈る風習があり、江戸時代には五節句の日は祝日となっていました。

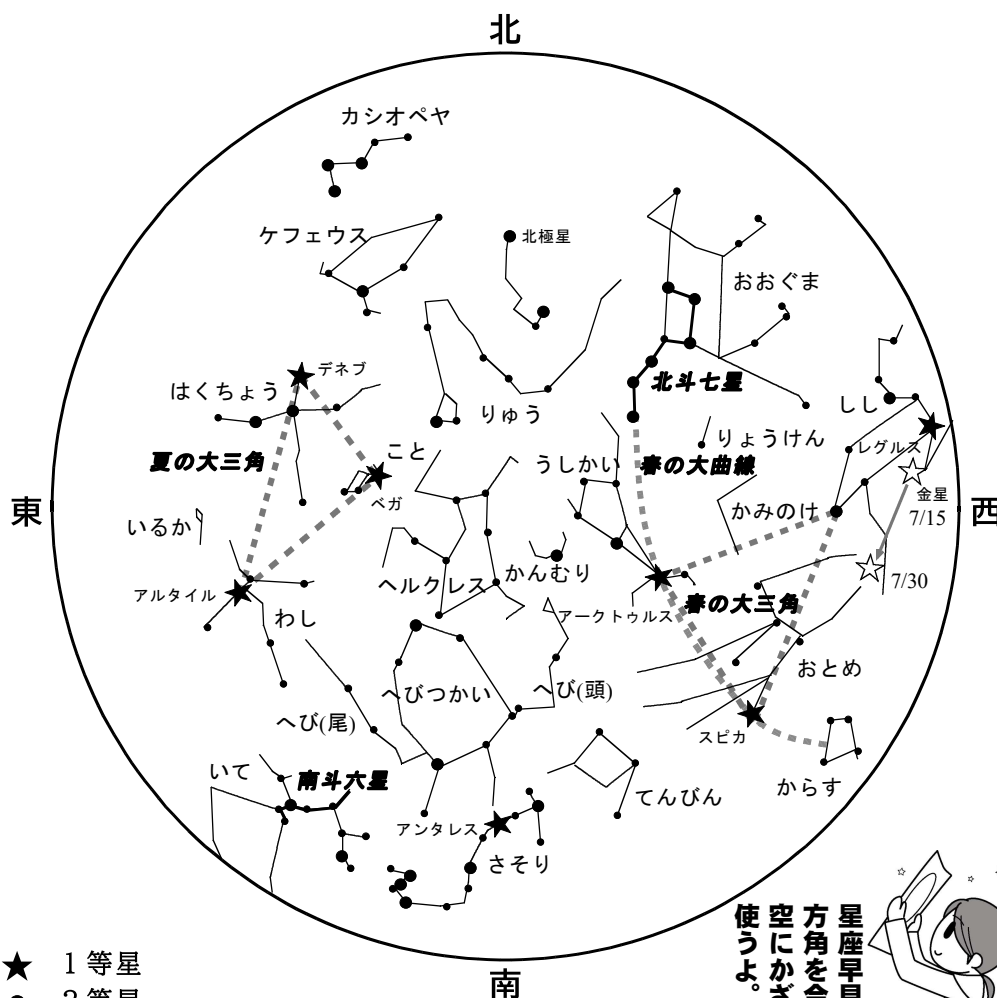
★かんたん星座早見★

7月

(月は描いてありません)



てんびん座



★ 1等星
● 2等星
・ 3等星
☆ 惑星

7月1日午後9時30分頃

7月15日午後8時30分頃

7月30日午後7時30分頃

星座早見は
方角を合わせて
空にかざして
使うよ。

